

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう!岩手 つなごう!岩手 第 165 号 令和 2 年 9 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

「いわて復興インデックス」における主な取組の進捗状況 及び令和 2 年第 2 回「いわて復興ウォッチャー調査」のデータから

岩手県では、沿岸被災 12 市町村を中心とした本県の復旧、復興の現状や進捗状況を分かりやすくお伝えするため、「いわて復興インデックス」を 3 か月に 1 回更新しています。

今回は、令和 2 年 6 月 30 日を基準とし、9 月 14 日(月)に公表した結果から、復興推進プランに掲げる「より良い復興～4本の柱～」の中の 2 つの分野の進捗を紹介します。

安全の確保

まちづくり(面整備)事業の進捗状況: 99%
完成区画数 7,419 区画(予定区画数 7,472 区画)
158 地区全てで着工し、151 地区が完成しています。

未来のための伝承・発信

「いわて震災津波アーカイブ～希望～」
アクセス数の R1～R2 進捗率: 93%
アクセス数 308,189 回(R1～R2 計画値 331,000 回)
東日本大震災津波関連資料の閲覧や収集ができます。

また、県では、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

この調査は、被災地域に居住又は就労している方々を対象に、半年に 1 回実施するものです。

今回は、令和 2 年第 2 回(令和 2 年 7 月実施)の調査結果から、主なデータを紹介します。

被災者の生活の回復度に対する実感

「回復」又は「やや回復」: 83.5% (前回調査: 88.7%)

被災者の住宅再建や雇用環境の改善、復興道路の整備が進んでいることにより生活は回復したという声がある一方で、コミュニティ形成に課題があることや、今後の被災地における高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響への不安の声がありました。

地域経済の回復度に対する実感

「回復」又は「やや回復」: 55.5% (前回調査: 57.3%)

市街地への店舗・事業所の再建、水産業の基盤整備などが進み、回復してきているとする一方で、復興需要の縮小、主要魚種の不漁、新型コロナウイルス感染症による地域経済への影響を課題とする声がありました。

災害に強い安全なまちづくりの達成度に対する実感

「達成」又は「やや達成」: 70.1% (前回調査: 68.0%)

防潮堤や復興道路等の整備、避難誘導標識の整備など、ハード面の進捗を評価する声がある中、防災意識の向上等のソフト面の安全対策や、台風災害に対する備えを課題とする声もありました。

「いわて復興
インデックス」
はこちら



「いわて復興
ウォッチャー調査」
はこちら



■問い合わせ: 岩手県復興局復興推進課
☎ 019-629-6945

「りあすぱーくマルシェ」開催

盛岡市

MORIOKA

令和 2 年 8 月 20 日(木)から 26 日(水)まで、盛岡市のパークアベニュー・カワトクにて「りあすぱーくマルシェ」が開催されました。

店頭には工芸品や加工食品など、沿岸 12 市町村の 14 事業者が開発した三陸のオリジナル商品が揃いました。

期間中、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、買い物客に自慢の品を売り込んだほか、盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校の学生が作成協力した出店者の紹介パネル

やポップを会場内に設置するなど、様々な工夫を凝らして商品の魅力をアピールしました。今回のマルシェは、出店者が消費者の生の声を聴ける貴重な機会となるとともに、消費者にとっては、内陸にいながら三陸



買い物客に商品の魅力を説明する出店者

の雰囲気を感じ、新たな「地物」に出会うきっかけとなりました。

一部商品は「りあすぱーく“オンライン”マルシェ」でもお買い求めいただけます。また、「りあすぱーくマルシェ」は今後、内陸の道の駅でも開催していく予定です。

りあすぱーく“オンライン”
マルシェはこちら



■問い合わせ:
岩手県復興局まちづくり・産業再生課
☎ 019-629-6931

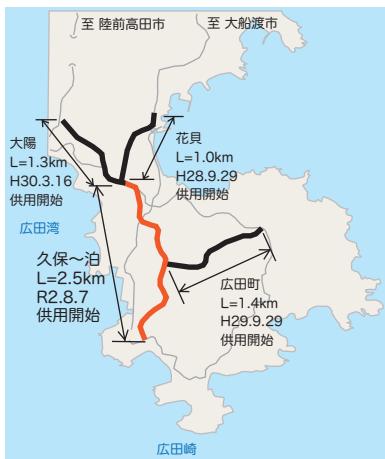
主要地方道 大船渡広田陸前高田線 広田半島4工区全線開通

陸前高田市

RIKUZENTAKATA

令和2年8月7日（金）、岩手県が沿岸地域の復興と安全・安心な通行の確保が図られるよう、「まちづくり連携道路」として進めてきた広田半島の「久保～泊」工区（延長約2.5km）が完了し、同半島における4工区（広田町、花貝、大陽、久保～泊）全てが開通となりました。

この開通により、東日本大震災津波で浸水した県道に代わる災害時の避難路としての機能が確保されるとともに、広田漁港をはじめとする水産業の物流の効率化などが促進され、地域活性化に寄与することが期待されます。



広田半島



道路改良工事が完了した
久保～泊工区

■問い合わせ：

岩手県沿岸広域振興局
土木部大船渡土木センター
道路整備課
☎ 0192-27-9919

根浜海岸 砂浜再生工事完成

釜石市

KAMAISHI

令和2年8月19日（水）、釜石市鶏住居町で、東日本大震災津波により消失した根浜海岸の砂浜再生工事が、完成しました。

平成29年度に人工的な砂浜再生（養浜事業）の可能性を検討した結果、「可能」と判断されたことから、県が平成30年度から総延長450mの工事を進めてきたものです。隣接する片岸海岸の堆積砂と宮城県からの購入砂を利用し、震災前と同程度の砂浜が復活しました。

今年は新型コロナウイルス感染症対策のため、根浜海岸の海開きは中止となりましたが、近隣のキャンプ場や箱崎フィッシャリーナ等とともに釜石市の主要観光スポットとして、にぎわい創出の役割を担います。



工事前の根浜海岸



工事完了後の根浜海岸

■問い合わせ：

岩手県沿岸広域振興局土木部河川港湾課
☎ 0193-27-5572

つなみ

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」（いわて TSUNAMI（つなみ）メモリアル）を紹介します。

なお、現在新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開館しております。

令和2年9月1日（火）、東日本大震災津波伝承館が所在する高田松原津波復興祈念公園では、地震による津波を想定した避難訓練が行われました。「防災の日」に合わせて行われたこの日の避難訓練には、伝承館を含む公園施設職員や来場者等約40名が参加しました。地震発生を告げるアナウンスが流れ、各施設の職員は「頭を保護してください。壁際から離れてください。」等、来場者に対して身の安全の確保を呼びかけながら屋外の待機場所に誘導し、約5分で避難が完了しました。

また、8月に利用が開始された、陸前高田市が指定する新たな避難経路を、公園施設職員等が実際に歩いて避

難する訓練が行われました。新たな避難経路は、現在工事中の国道や通路を通り津波浸水区域外となる高台を目指すもので、従来のルートよりも約5分短縮できることを確認しました。

東日本大震災津波伝承館では、今後も公園施設関係者等と協力しながら、地震津波を想定した訓練を重ねて来場者の安全の確保に努めるとともに、津波の恐ろしさや避難の大切さを伝えていきます。

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館
☎ 0192-47-4455



職員の誘導による避難



屋外待機場所への避難



工事中の国道を歩いての避難



津波浸水区域外となる高台への避難



東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、釜石市の郷土芸能「鵜住居虎舞」について、小原 正人さんに伺いました。



鵜住居青年会 会長
小原 正人 さん

「鵜住居虎舞」は、江戸時代中期頃に岩手県上閉伊郡より伝わったと言われ、太鼓、笛、手平金（てびらがね）、掛け声に合わせて、一体につき2人が虎頭と衣装をまとい踊ります。

釜石には私たちの他にも虎舞の団体がありますが、私たちの虎舞は、踊りがゆったりとして優雅であることから「雌虎（めすとら）」と言われており、「手踊り」が数多く伝承されているのが特徴で、鵜住居青年会が継承しています。

鵜住居地区は、震災時の津波により、ほとんどの会員が、自宅が流されるなど壊滅的な被害を受けました。私たち青年会の練習場所や道具を保管していた施設も流され、衣裳や屋台、道具なども一切失いました。震災から数日後、何とか瓦礫の中から太鼓を見つけ、革を張り替えて、今もその太鼓を使っています。

震災直後から、全国多方面の方々に暖かい支援や援助をいただき、少しずつ道具や衣裳を揃え、活動の準備を進め、震災の年の10月には、首都圏で活動している民

あらうまざ
族歌舞団“荒馬座”さんから茨城県日立市の秋祭りで虎舞を踊れる機会を与えていただき、震災後初めて虎舞を披露することができました。

現在は、鵜住居小学校の5・6年生が授業の一環として虎舞の継承に取り組んでいますが、震災後に鵜住居を離れ、他の町での暮らしを余儀なくされている子どもたちも練習のため鵜住居に集まり、ふるさととの繋がりを大切にしています。

虎舞を通じて、地域や全国の皆さんに恩返しをしたいという思いと、虎舞を見て、ひとりでも元気になってもらいたいとの思いで活動を続けています。



「鵜住居青年会」の会員
(写真提供：鵜住居青年会)



演舞の様子
(写真提供：鵜住居青年会)



さんりくイベント情報



EVENT

久慈地方物産展&地産地消フェア

久慈市
KUJI

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている商工業者や農林水産業者を支援するため、久慈地方の特産品等を一堂に集めた「久慈地方物産展」及び「地産地消フェア」が開催されます。

- 期間：10/10（土）～10/11（日）
- 場所：久慈市文化会館
- 問い合わせ：久慈地方産業まつり実行委員会事務局
(久慈市商工市街地振興課)
☎ 0194-52-1525

第26回宮古市産業まつり

宮古市
MIYAKO

宮古地域の特産品や地場産品を販売する物産展です。姉妹市村の青森県黒石市、沖縄県多良間村（たらまそん）の特産品販売も行われます。新型コロナウイルス感染症の影響により、例年の産業まつりと開催内容が異なります。

- 期間：10/3（土）～10/4（日）
- 場所：宮古市総合体育館
- 問い合わせ：宮古市産業まつり実行委員会
(宮古市産業支援センター内)
☎ 0193-68-9092

いわて・かまいし ラグビーファンゾーン

釜石市
KAMAISHI

RWC2019 岩手・釜石開催を振り返り、フィジー対ウルグアイの試合上映のほか、RWC2019 日本大会出場選手によるトークイベント、メモリアルマッチのパブリックビューイングなどが行われます。

- 期間：10/9（金）前夜祭
10/10（土）メモリアルイベント
- 場所：釜石市民ホール TETTO
- 問い合わせ：岩手県文化スポーツ部オリパラ推進室
☎ 019-629-6798

三陸花火大会

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

— SANRIKU Fireworks Festival —

三陸の空に10,000発の花火が打ち上げられます。「オフラインとオンラインが融合した花火大会」で、遠方から会場に足を運ばなくても楽しめるよう、マルチアングルLIVE配信が行われます。

- 日時：10/31（土）19:00～20:00
- 場所：高田松原運動公園
- 問い合わせ：三陸花火競技大会実行委員会事務局窓口
☎ 090-5231-5029
(平日9:00～18:00)



田野畑村にある「机浜番屋群」は、震災の津波で全て流失しましたが、「机浜番屋群再生プロジェクト」のもと再建され、漁業と観光が融合した新たな体験観光拠点となりました。



「机浜番屋群」の全景



サッパ船アドベンチャーズ (写真提供：NPO 法人体験村・たのはたネットワーク)

震災前、「番屋」と呼ばれる漁師の作業小屋や倉庫などで構成されていた「机浜番屋群」は、平成 18 年に水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれましたが、震災の津波で全て流失してしまいました。

平成 27 年 4 月、元の番屋があった場所に以前の面影を復元する形で 22 棟が再建され、漁業と観光が融合した体

験観光拠点として生まれ変わりました。

施設では、漁師（ハンモウド）の塩作り体験、番屋料理体験が楽しめるほか、番屋群漁師ガイドなどが行われています。また、小型の磯舟で断崖景観を楽しむ「サッパ船アドベンチャーズ」や「みちのく潮風トレイル」を案内するネイチャーガイドなど、様々な自然体験プログラムが提供されています。

* プログラムへの参加にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用やアルコール消毒等にご協力をお願いします。

■所在地：下閉伊郡田野畑村机 142-3

■営業時間：9:00～17:00

■定休日：年末年始

■問い合わせ：NPO 法人体験村・たのはたネットワーク

☎ 0194-37-1211



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第 111 回は、佐々木 翔太さんを紹介します。

PROFILE

宮古市出身。今年 3 月に宮古商業高校を卒業後、4 月に三陸鉄道株式会社に入社する。

現在は、駅での切符販売や車掌としての業務、洗車や給油などの構内業務を行う傍ら、運転士の試験に向け、勉学に励んでいる。

幼い頃からの夢を現実に

震災発生後の 5 日後には一部区間で運行を再開し、その後も復旧に向けた三陸鉄道の姿は被災地を勇気付け、発災時小学校 3 年生だった佐々木さんも元気をもらったと当時を振り返ります。

「幼い頃から鉄道が好きで、高校への通学に三陸鉄道を利用していたこともあり、卒業後は馴染みのある三陸鉄道で地域の人に元気を届け

いわて さんりく びと

三陸鉄道株式会社
運行本部 運転士候補生
佐々木 翔太さん
(ささき しょうた)



ぜひ、三陸鉄道に乗りに来てください!

る運転士になりたいと思い入社しました。」と佐々木さんは、幼い頃からの夢を追い続けています。

「今は鉄道全般に関する業務を学んでおり、慣れない仕事で不安もありますが、人とのふれあいを大切にしています。」と佐々木さんは、充実した日々を過ごしています。

地域にとって重要な三陸鉄道

「令和元年台風第 19 号では、三陸鉄道をはじめ沿岸地域も大きな被害を受けました。土砂崩れで道路が寸断され、車での移動が困難になる中、多くの人が三陸鉄道を利用しており、地域にとって鉄道は重要な交通手段だと感じました。安全にお客様に乗っていただくことを第一に考え、また乗りたいと思ってもらえるような、思いやりのある運転士を目指したいと思います。災害時だけでなく、普段から三陸鉄道を利用していただきたいと思います。」と佐々木さんは、抱負を語ります。

岩手県の被害状況

令和 2 年 8 月 31 日現在

皆様のご支援、ありがとうございます

令和 2 年 8 月 31 日現在

▶人的被害 死者（直接死）：4,674 人 行方不明者：1,112 人
死者（関連死）：469 人

▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,079 棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

▶義援金受付状況 約 187 億 4366 万円 (97,591 件)

▶寄付金受付状況 約 201 億 2 万円 (10,208 件)

▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約 102 億 2979 万円 (24,756 件)

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約 24 万点の資料を検索・閲覧できます。



[いわて震災津波アーカイブ](#)

検索

いわて復興だより 第 165 号 令和 2 年 9 月 25 日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎ 019-629-6945
編集・印刷：シナプス